

令和4年度からの学校給食の変更内容 及び給食費の検討について



1 はじめに

令和3年度第1回学校給食運営委員会（7月2日開催）において、今後の学校給食の方針については「学校生活をより豊かにする給食」の視点から、米飯給食を基本としつつ、パン、麺の提供回数を増加し、現状の年5回から年22回(月2回程度)とすることとした。

この新たな方針を踏まえながら総合的に学校給食の見直しを図るために検討を行い、令和4年度からの学校給食の変更内容及び給食費について取りまとめた。

★令和4年度からの変更内容

学校生活をより豊かにする給食

○主食の種類に広がりを持たせる。 ⇒

パン、麺を現状の年5回から年22回(月2回程度)へ増やす。

○学校給食摂取基準の充足率向上を図る。 ⇒

・エネルギー、カルシウムを増やす。
・食塩相当量を減らす。 など

○児童生徒が給食に主体的に関わる機会を増やす。 ←

給食費への影響について検討が必要

2 主食の種類の広がりについて

★パン、麺の提供から広がる学び

学ぶ・知る・興味を持つ

主体的に関わる

日本の食文化や 歴史食文化の応用	県内や県外 のご当地料理	諸外国の食文化	自分で食べ方を 考える・選ぶ	主食を選ぶ
<ul style="list-style-type: none"> かけうどん風 (日本ならではの出汁) 米粉パン 米粉麺 	<ul style="list-style-type: none"> カレーラーメン イタリアン (新潟県) とん汁ラーメン (上越市) 札幌ラーメン (北海道) だし巻き卵サンド (京都府) ほうとう (山梨県) 	<ul style="list-style-type: none"> スパゲティ (イタリア) フォカッチャ (イタリア) ナン (インド) フォー (ベトナム) トルティーヤ (メキシコ) 	セルフサンド <ul style="list-style-type: none"> サンドイッチ ホットドック コロケバーガー メンチカツバーガー 	<ul style="list-style-type: none"> ご飯orパン ご飯or麺

※全てのメニューが提供されるということではありません。

それぞれの観点を取り入れ、学びや主体的に関わる機会へつなげる
「学校生活をより豊かにする給食」 を実践



パン、麺の提供回数

現状 年5回 ⇒ 年22回(月2回程度)へ



2 主食の種類の広がりについて

★パン、麺の提供内容について

米粉と小麦の提供

- ・それぞれの特長を活かした料理を提供することで、食事体験の幅が広がる。
- ・米の加工等の活用について、食べるという実体験を交えて学ぶことができる。

安全、安心な地産地消の推進

- ・地域農業についての学びを深める。
- ・身近な農業者が生産しているという安心感



主食	種類	米粉、小麦の産地	回数	特長
パン (11回/ 年195回※)	米粉パン	三条100%	6回	<ul style="list-style-type: none">・ほんのり甘い。・しっとりしていてそのままでも食べやすい。・和風のおかず、薄味のおかずとも相性が良い。・米の香りも楽しめる。
	小麦パン	三条1：県内9	5回	<ul style="list-style-type: none">・洋風の、味のしっかりしたおかずと相性が良い。・水分の多いおかずを、挟んだりのせたりする食べ方もおすすめ。・甘みは少なく、パンらしい味と食感が楽しめる。・丸パンや食パンなどの加工も可（加工料金必要）
麺 (11回/ 年195回※)	米粉麺	三条100%	6回	<ul style="list-style-type: none">・和風の汁、ミートソースなど洋風のソース、エスニック系のスープなど、幅広いジャンルの料理で提供できる。
	小麦麺 (中華麺)	三条1：県内9	5回	<ul style="list-style-type: none">・主にラーメンとして提供。・県内では、中華麺が麺の中で一番人気が高い。

※年195回→令和3年度の小学校年間給食実施予定回数の平均値

3 学校給食摂取基準の充足率向上について

★現状と課題

- ・ 県内平均と比べて、エネルギー、カルシウム、ビタミンB2（中学校）の充足率が低いため、それらの栄養素等の摂取量を増やすことが必要。
- ・ 食塩相当量が若干過剰なため、更に減塩に取り組むことが必要。



食塩相当量を抑えながら、不足の栄養素等の摂取量を増やすため、

牛乳の提供回数を増やす

★さらに...

- ・ 栄養価が安定するため、無理なく献立が立てられるようになる。
→使用食材の幅が広がり、より様々な料理を提供できる可能性



牛乳の提供回数

【現状】

小学校 月14回程度
中学校 月16回程度



小中共に
月20回程度へ



4-1 給食費の検討について(主食の種類の違い)

「学校生活をより豊かにする給食」の実践による給食費への影響について検討した。

★パン、麺の年間回数

	現状	令和4年度～	差
米粉パン	2回	6回	+4回
小麦パン	1回	5回	+4回
米粉麺	1回	6回	+5回
小麦麺(中華麺)	1回	5回	+4回
合計(年間回数)	5回	22回	+17回



★給食費への影響額

○小学校

小学校	米飯との見込差額(円)		増加回数		影響額(円)
米粉パン	26.38	×	4	=	105.52
小麦パン	17.55	×	4	=	70.20
米粉麺	26.57	×	5	=	132.85
小麦麺(中華麺)	16.72	×	4	=	66.88
年間増加費用					375.45

①375.45円(年間増加費用)÷195回(年間給食実施回数※)

≒2.0円/回(パン、麺回数増による1食当たりの増加費用) **A**

②A 2.0円 + 0.5円(米飯回数減に伴う補助金減による1食当たりの影響額) = **2.5円 ← 1食当たり増加費用**

○中学校

中学校	米飯との見込差額(円)		増加回数		影響額(円)
米粉パン	29.60	×	4	=	118.40
小麦パン	17.14	×	4	=	68.56
米粉麺	45.17	×	5	=	225.85
小麦麺(中華麺)	31.61	×	4	=	126.44
年間増加費用					539.25

①539.25円(年間増加費用)÷194回(年間給食実施回数※)

≒2.8円/回(パン、麺回数増による1食当たりの増加費用) **A**

②A 2.8円 + 0.6円(米飯回数減に伴う補助金減による1食当たりの影響額) = **3.4円 ← 1食当たり増加費用**

※年間給食実施回数...小学校、中学校それぞれの令和3年度年間給食実施予定回数の平均値 5

4-2 給食費の検討について(学校給食摂取基準充足率向上)

★給食費への影響額

○小学校

A 費用増加分の詳細

1 牛乳提供回数増加分

小学校	見込単価		増加回数		年間増加費用(円)
牛乳等	59.90	×	58※	=	3,474.2 (a1)

※基本月6回(金曜4回+水曜2回)提供を増やすため、その年間回数
 ※牛乳相当価格の飲むヨーグルト等を年に数回提供することがあります。

2 牛乳の単価上昇見込み分

小学校	上昇見込額		年間回数		年間増加費用(円)
牛乳	0.83	×	137	=	113.71 (a2)

費用増加分合計額

$$3,474.2(a1) + 113.71(a2) = \mathbf{3,587.91(円) A}$$

B 費用減少分の詳細



牛乳の提供がない日やデザートとして提供してきた相当費用

小学校	単価		年間回数		年間減額費用(円)
麦茶	48.60	×	28	=	1,360.80
飲むヨーグルト	51.84	×	11	=	570.24
ヨーグルト	44.28	×	10	=	442.80
チーズ	24.84	×	9	=	223.56
合計			58		2,597.40 B

C 影響額算出

○小学校

$$[(A)3,587.91 - (B)2,597.40] \div 195 \text{ 回(年間給食実施回数)} \\ \doteq \mathbf{5.1 \text{ 円} \leftarrow 1 \text{ 食あたり増加費用}}$$

○中学校

A 費用増加分の詳細

1 牛乳提供回数増加分

中学校	見込単価		増加回数		年間増加費用(円)
牛乳等	59.90	×	39※	=	2,336.1 (a1)

※基本月4回(金曜)提供を増やすため、その年間回数
 ※牛乳相当価格の飲むヨーグルト等を年に数回提供することがあります。

2 牛乳の単価上昇見込み分

中学校	上昇見込額		年間回数		年間増加費用(円)
牛乳	0.83	×	155	=	128.65 (a2)

費用増加分合計額

$$2,336.1(a1) + 128.65(a2) = \mathbf{2,464.75(円) A}$$

B 費用減少分の詳細



牛乳の提供がない日に提供してきた相当費用

中学校	単価		年間回数		年間減額費用(円)
麦茶	48.60	×	28	=	1,360.80
飲むヨーグルト	51.84	×	11	=	570.24
合計			39		1,931.04 B

※中学校は小学校より充足率が低いため、小学校で減額するヨーグルト及びチーズの相当費用は減額しません。

C 影響額算出

○中学校

$$[(A)2,464.75 - (B)1,931.04] \div 194 \text{ 回(年間給食実施回数)} \\ \doteq \mathbf{2.8 \text{ 円} \leftarrow 1 \text{ 食あたり増加費用}}$$

5 給食費改定案について

★学校給食の見直しにより必要な費用（1食当たり）

項目	小学校	中学校
主食の種類の広がり	+ 2.5円	+ 3.4円
学校給食摂取基準充足率の向上	+ 5.1円	+ 2.8円
合計（小数点以下切り上げ）	7.6円 ≒ 8円	6.2円 ≒ 7円

★令和4年度からの給食費（案）

	小学校				中学校			
	1食単価	時期	年額 (参考) ※	月額 ◎ 8月と3月を除き 10回の月に分けて納入 ◎ 2月に想定年間給食実施回数 との増減差額分等を調整	1食単価	時期	年額 (参考) ※	月額 ◎ 8月と3月を除き 10回の月に分けて納入 ◎ 2月に想定年間給食実施回数 との増減差額分等を調整
現行	276円	前回改定時 (H27)	想定年間給食実施回数：187回	基本月額：5,170円	322円	前回改定時 (H27)	想定年間給食実施回数：185回	基本月額：5,970円
			51,612円 (276円 × 187回)	2月：5,082円 ※			59,570円 (322円 × 185回)	2月：5,840円 ※
改定案	284円	R4～	想定年間給食実施回数：195回	基本月額：5,170円	329円	R3現状	想定年間給食実施回数：194回	基本月額：5,970円
			53,820円 (276円 × 195回)	2月：7,290円 ※			62,468円 (322円 × 194回)	2月：8,738円 ※
差額	+ 8円	R3現状と改定案との差額	想定年間給食実施回数：195回	基本月額：+ 370円	+ 7円	R3現状と改定案との差額	想定年間給食実施回数：194回	基本月額：+ 420円
			284円 (284円 × 195回)	2月：5,520円 ※			63,826円 (329円 × 194回)	2月：6,316円 ※
			+ 1,560円	2月：△1,770円 ※			+ 1,358円	2月：△2,422円 ※

給食費納入例（小学校）

【H27改定時(平均的な年間給食実施回数187回)】

- ・ 4月～翌年1月(8月除く)→(基本月額)5,170円 × 9回 = 46,530円
- ・ 2月(調整月)納入額の算出方法
①(1食単価)276円 × (年間給食実施回数)187回 = (年間総額)51,612円
②51,612円 - (1月までの納入済額)46,530円 = **(2月納入額)5,082円**

【R3現状(平均的な年間給食実施回数195回)】

※夏休みの短縮化等により給食実施回数が増加したが、月額は据置

- ・ 4月～翌年1月(8月除く)→(基本月額)5,170円 × 9回 = 46,530円
- ・ 2月(調整月)納入額の算出方法
①(1食単価)276円 × (年間給食実施回数)195回 = (年間総額)53,820円
②53,820円 - (1月までの納入済額)46,530円 = **(2月納入額)7,290円**

※ 各学校、学年により年間給食実施回数は異なるため、年額及び2月(調整月)の納入額は参考額です。